



第26回企画展

戦艦「長門」と

日本海軍



「長門」の見学会

2018年4月25日(水)～2019年1月20日(日)

開館時間 9:00～18:00 (入場は17:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合は翌日) ※ 5/1、7/24、7/31、8/7、8/14、8/21、8/28、1/1は開館

料 金 一般[大学生以上] 800円(400円)、高校生 500円(300円)、小・中学生 300円(200円)

※常設展とのセット料金 ※ () 内料金は企画展のみの料金 ※呉市内に在住・在学の高校生以下は無料



——— 呉市海事歴史科学館 ———

大和ミュージアム

〒737-0029 広島県呉市宝町5番20号

TEL : 0823-25-3017

FAX : 0823-23-7400

URL : <http://www.yamato-museum.com/>



全力公試中の「長門」(大正9年)



長門「長官公室」(大正期撮影)



新案物識りかるた(『少年倶楽部』昭和5年1月号付録)

第26回企画展

戦艦「長門」と日本海軍

The 26th Exhibition : The Battleship Nagato of the Japanese Navy

戦艦「長門」は、日本海軍の軍備拡張計画「八八艦隊」の一番艦として、大正9(1920)年、呉海軍工廠で建造されました。世界初の41センチ砲を搭載し、高速で航行することが可能な「長門」は、世界の海軍の歴史に大きな影響をあたえます。

「長門」建造時、戦艦は海軍の主力と考えられていました。連合艦隊の旗艦を長くつとめた「長門」は、日本海軍のシンボルとなり、国民から「日本の誇り」として広く親しまれます。

昭和16(1941)年の太平洋戦争開戦時、作戦の指揮をとったのは、連合艦隊旗艦「長門」の司令部でした。旗艦の任を「大和」にゆずった「長門」は、マリアナ沖海戦やレイテ沖海戦などに参加。損傷を受けながらも航行可能な唯一の戦艦として終戦を迎えます。戦後、アメリカ軍に接収された「長門」は、昭和21(1946)年、ビキニ環礁で行われた核実験の標的となり沈没しました。

日本海軍にとって、「長門」は、明治以降培ってきた建艦技術の集大成であり、海軍力の象徴でした。「長門」は日本海軍を代表する存在として大正・昭和期の軍拡・軍縮・戦争の時代をあゆみます。「長門」の生涯について知ることは、日本海軍の歴史を理解する上で重要といえるでしょう。

本企画展では、軍艦旗や図面、「長官公室」部分再現等の展示により、「長門」の生涯をたどります。また、かるたや新聞等の資料から当時の人びとが海軍や戦艦とどのように向き合っていたかを考えます。

アクセス

- JR**
JR広島駅からJR線 快速約32分
JR呉駅から徒歩約5分
- 自家用車**
▶ 広島方面から広島呉道路約20分
→ 呉ICから約5分
▶ 山陽自動車道(広島東JCT)から
広島高速→広島呉道路約30分
→ 呉ICから約5分
▶ 山陽自動車道(高屋JCT)から
東広島・呉自動車道約40分
- バス**
▶ 広島バスセンターからJR呉駅まで約46分
JR呉駅から徒歩約5分
▶ 広島空港からJR呉駅前で約60分
JR呉駅から徒歩約5分
- フェリー**
呉中央桟橋から徒歩約1分



よく
わかる!

学芸員による ギャラリートーク

日時：第2土曜日 11:00~11:30

場所：企画展会場内

定員：15名 ※毎回10:50より先着順に受付けます。
※ご参加には企画展観覧券が必要です。

▶ 詳細はHPをご確認ください。